

顔の小腫瘍の炭酸ガスレーザーを用いた治療のコツ

～脂漏性角化症を中心に

顔の小腫瘍にはさまざまなものがあるが、脂漏性角化症は皮膚科医が遭遇することの多い老徴の1つである。治療方法は、液体窒素を用いた冷凍凝固術、手術による切除、炭酸ガスレーザーによる蒸散があり、なかでも最新の炭酸ガスレーザーは、高精度のパワーと熱伝導的確な組織の蒸散を可能とし、施術中の痛みや術後の色素沈着が軽減される有効な治療法である。本稿では、脂漏性角化症の病態と診断を踏まえ、炭酸ガスレーザー治療における治療の実際について解説する。



川島 眞

KAWASHIMA Makoto

東京女子医科大学名誉教授/医療法人社団ウェルエイジング総院長

脂漏性角化症とは

脂漏性角化症は、加齢や紫外線曝露が原因と考えられる良性の皮膚腫瘍である。「老人性疣贅」とも呼称され、おもに中年以降に生じる。好発部位は顔面や頭頸部など露光部が中心であり、最初に平板なシミ(老人性色素斑)として現れ、その後、次第に隆起していく。通常は0.5～2cm程度の大きさで、表面は角化を伴いザラザラしており、色調は褐色～黒褐色までさまざまで、無色のケースも認められる。単発・多発例があり、加齢に伴い数が増えるものの、いずれの場合も自然消滅することはない。

良性であるため必ずしも除去の必要はないが、短期間に軀幹に多発し、かゆみを伴う場合は、レーザー治療を徴候と呼ばれ、内臓の悪性腫瘍が存在する可能性を疑う。

脂漏性角化症の診断

脂漏性角化症の診断は、有棘細胞

癌や悪性黒色腫(メラノーマ)などの皮膚悪性腫瘍の初期病変との鑑別が難しい場合もあり、正確な診断のためにはダーモスコピーを用いた検査が必須である。悪性の可能性を疑う場合、バイオプシーを実施して病理組織検査を行う。

脂漏性角化症の治療

脂漏性角化症の有効な治療方法としては、液体窒素を用いた冷凍凝固術、手術による切除、炭酸ガスレーザー(CO₂レーザー)による蒸散がある。炭酸ガスレーザーは水分をターゲットとする波長10,600nmの高出力レーザーである。蒸散作用に加えて熱発生が大きく、熱変性を強く起こす特長を有することから、生体では組織の切開や蒸散の目的で用いられ、現在ではとくに体表面の治療に使用されるケースが増えている。

脂漏性角化症の治療において、治療後の傷痕が最も美しく仕上がるのは炭酸ガスレーザーによる治療と考えられる。炭酸ガスレーザー治療で

は、局所麻酔後に病変部を蒸散するが、ダーモスコピーで取り残しがないか否かを確認しながら行うことにより、基本的に治療が1回で済むというメリットがある。照射部位に赤みや黒ずみが出ることがあるが、液体窒素凍結療法より軽微である。

炭酸ガスレーザー Edge ONEの特徴

炭酸ガスレーザーを用いた治療の実際について、2018年10月にわが国で医療機器製造販売承認を取得した炭酸ガスレーザー Edge ONE(図1)をもとに解説する。本機器は、正常軟部組織の切開や病変組織の切除または蒸散に使用することを目的・効果として承認された(表1)。炭化しにくく周辺組織への影響が少ないウルトラパルス(80～1,000μs)を高ピークパワーで照射する、高精度のレーザービームを特長としている。10,600nm波長が水分にスペクトル吸収されることにより、CO₂サージカル・レーザーのパワー密度